



Information3



今月は、身近な神経疾患でもある
『てんかん』についてです。

てんかんとは…大脳の神経細胞の異常興奮により引き起こされ
症状が繰り返し認められる疾患です。
まず初めに**てんかん**は、2つに分類されます。

特発性てんかん：原因不明であり機能的異常とされるが、
多くの場合何らかの遺伝的素因が関与していると
考えられている。

初発年齢：6か月齢～6歳

症候性てんかん：**特発性てんかん**に対し、脳に品質的病変があり
それによって、てんかん発作が二次的に
引き起こされると考えられている。

原因となる疾患

・脳の奇形 ・脳の外傷 ・脳腫瘍 ・脳血管障害 ・脳炎

てんかん発作全体における症候性てんかんの占める割合は、
犬猫ともに**50%**です。

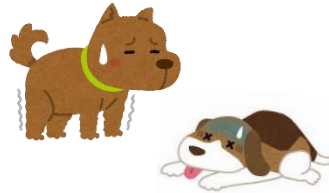
〈 症状 〉

全身に起こるタイプ

- ・意識を失い全身の痙攣を起こす
- ・痙攣と脱力を繰り返す
- ・四肢をバタバタさせる

身体の一部に起こるタイプ

- 顔面の筋肉で一肢だけ筋肉が動いてしまう



痙攣発作による生体への影響

神経系

発作は神経細胞および
神経ネットワークの異常に
過剰な興奮であることから発作によって
神経組織そのものがダメージを受ける。



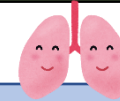
循環器

発作活動によるカテコラミンの
大量放出により肺や左心房を含む
全身性の血圧上昇および心拍数の上昇、
低換気による心筋への低酸素性傷害など
から不整脈が惹起される。



呼吸器

交感神経系の亢進による過剰な
気道分泌物やよだれと換気量低下により呼
吸障害が引き起こされることがある。
発作活動が群発あるいは継続する場合には
誤嚥性肺炎を引き起こすこともある。



筋肉

痙攣による過剰な筋活動は高体温や
嫌氣的代謝産物による
乳酸アシドーシスを引き起こす。
(痙攣による高体温は特に夏季、
短頭種や大型犬では注意が必要！)



てんかんは、神経細胞の過剰な興奮によって起こされる脳の病気です。

次のような事が起こった際、様子を見ずご相談ください！

- 🐾初めて発作が起こった時
- 🐾発作の間隔が短くなった時
- 🐾発作が連続して起きている時

発作が起きている時のチェックポイント！！

- ✓発作の始まりから終わりまでの症状と時間
- ✓複数回起こしているとしたら前と同じ症状であるのか
- ✓発作前と後の様子

